第回中央学習会(2002.11.9)資料

ソーシャル・スキルトレーニング ~ともだちづくりのスキル~

じゃむ

スキル教育が心を育てる

心の教育とは「思考」「感情」「行動」の3領域の反応の仕方が多様化することである。 これら3つの心の教育を行う方法をサイコエジュケーションという。サイコエジュケーションの代表選手が構成的グループエンカウンター,キャリアガイダンス,特別活動(グル ープ体験),そしてスキル訓練(スキル教育)である。

スキル教育は教師ができるカウンセリングの中でも特に大事なものである。スキルが身 に付くと思考と感情が変化する。

なぜソーシャルスキルか

Social	Skills	スキル	身に付いていくもの
社会的な	技術・技能		ex.自動車の運転
人付き合いの			

ソーシャルスキルは体験によって学ぶもの。つまり自然に身に付くもの。もし,よく ないスキルを身に付けてしまっても,修正が可能。

子ども同士が結びつく過程では対人的なトラブルが増える。しかし,問題の解決方法が つたないのでつきあいそのものから逃げる。子ども同士は深い結びつきがもてなくなる。 ソーシャルスキルは「ともだちづくりのスキル」であると言える。

> 上下関係の喪失(おもちゃが世代を分断する) 遊び仲間の縮小(趣味・嗜好によって分かれる) 集団内でストレスを感じる子どもの増加(不登校問題等) 遊びの質的変化(情緒交換遊び 情報交換遊び) 人間関係の変化(全人的な人間関係 局面的な人間関係)

自分のことを他の人がどう思っているか分からない,自信がもてない。

恋愛につながらない

ソーシャル・スキル教育とは

人間関係に関する具体的なコツや技術のことをソーシャルスキルと言う。友達との関係 が良好な子供はソーシャルスキルを適切に発揮している。ソーシャルスキル教育というの は人間関係に関するノウハウを教えることである。このような教育をすることは、子供た ちの個性を殺すことだという批判があるが、ソーシャルスキルを身に付ければ、相手の気 持ちを理解でき、自分の思っていることを的確に伝えることができるようになるので、む しろ個性を発揮するための道具を身に付けたのと同じになる。

ソーシャルスキル教育では12の基本的スキルを獲得することができる。

基本的関わりスキル	あいさつ・ 自	己紹介・	上手な甲	徳き方・	質問する			
仲間作りのスキル	仲間の誘い方・	仲間の <i>)</i>	∖リ方・	あたたカ	かい言葉かけ			
気持ちを分かって働きかける								

主張行動スキル やさしい頼み方・ 上手な断り方・ 自分を大切にする 問題解決のスキル トラブルの解決方法を考える

ソーシャルスキルの身に付け方は山本五十六が言っているとおりである。

「 <u>してみせて</u> 言って聞かせて<u>させてみて</u> <u>褒めてやらねば</u> 人は動かず 」 モデリング リハーサル フィードバック

そこで,どのようにすすめるかというと,

インストラクション モデル提示 行動リハーサル フィードバック

子どものソーシャルスキルを育むために

子どもたちは本来,成長する過程でさまざまな人間関係を体験し,それらの体験を通じ てソーシャルスキルを身に付けていく。最初は家庭の「しつけ」。そして,家族以外の大 人,友達やクラスメート。子どもたちの人間関係が希薄になっている今,ソーシャルスキ ルを身に付けるための最後の砦は学校である。学校にはたくさんのモデルがいる。体験が できる。試すことができる。フィードバックがもらえる。

楽しいイベントづくり 心地よい学級集団の形成 学校を開く ソーシャルスキル教育(基本スキルは12)

「いっしょに遊ぼうゲーム」 ねらい 友達関係が学校生活の楽しさを左右する。ここでは友達を誘うためのスキルを練習 することに加え、実際にだれにでも声をかけられるような練習を重視する。 獲得目標とするスキル 相手に近づく 相手をきちんと見る 聞こえる声で言う 笑顔で言う だれにで も「いっしょに遊ぼう」と言う。 内容 ・チームに分かれ、順番を決める。 ・合図とともに各チーム一人ずつ真ん中に走り「友達スティック」をひく。」 ・相手のチームの子だったら近づいて「いっしょに遊ぼう」と言い,自分のチームに 連れてくる。 「あたたかい言葉かけ」 ねらい あたたかい言葉かけは人間関係もあたたかくする。あたたかい言葉とはなにかを知 り,あたたかい言葉をかけられる体験を通してそのよさを味わう。 獲得目標スキル 相手に近づく 相手をきちんと見る 聞こえる声で言う 笑顔で言う あたたか い言葉が「相手の様子+感情語」からなることが分かる。

参考·引用文献「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校 監修 國分康孝 編著 小林正幸 相川充 図書文化」